

倉敷医療生活協同組合の概要

名 称	倉敷医療生活協同組合
所 在 地	倉敷市水島南春日町13-1
代表理事	〔専務理事〕 谷 謙一
組合員数	65,640人
出 資 金	1,700百万円
事業内容	医療事業、福祉事業
事 業 所	病院 3、医科診療所 2、歯科診療所 7、 訪問看護ステーション 3、助産所 1、 介護老人保健施設 1、 通所リハビリテーション 3、通所介護 1、 訪問リハビリテーション 1、居宅介護支援事業所 3、 地域包括支援センター 1
事 業 高	10,300百万円

発行およびお問い合わせ

倉敷医療生活協同組合
総務部・健康事業部

〒712-8025 倉敷市水島南春日町13-1
Tel 086-444-4321 Fax 086-448-4150
E-mail soumu@kura-hcu.jp
ホームページ <http://www.kura-hcu.jp/>

発 行 日 2017年6月
報 告 期 間 2016年4月1日～2017年3月31日
次回発行予定 2018年6月

「事業」と「運動」についての報告書への
みなさまのご意見をお寄せください。
上記メールかFaxにてお願いします。

一人ひとりを 大切にする 社会の実現の ために

Each for All and All for Each



「事業」と「運動」についての報告書 2017年度版



倉敷医療生活協同組合の理念

私たちの思い

人が人として大切にされる社会をめざし

保健・医療・介護の事業と運動をとおして

様々な人たちと手をつなぎあい

平和とくらしを守り

健康で明るいまちをつくります。



健康寿命延伸のとりくみをつうじて 安心して住み続けられる まちづくりをすすめます

当組合は、「いのちと暮らしを守る」事業活動や医療生協運動を2016年度も着実に前進させることができました。組合の事業と運動を支えていただきました皆様に心から感謝申し上げます。

さて、医療と介護、私たちの暮らしは大きな転換点を迎えようとしています。超高齢社会の到来と地域で暮らす方々の孤立化の中で、来年度は地域医療や地域介護の制度が全面的に見直され、新しい社会システムづくりが一層すすめられます。また、岡山県では平均寿命と健康寿命（日常生活に制限のない状態）の差が10歳以上もあり、いかに健康に長生きするかも課題となっています。

私たちの組合では、WHO（世界保健機関）が呼び掛けている「ヘルスプロモーション戦略」（健康づくりと社会のしくみづくり）を踏まえて、地域の中での健康づくりをすすめてまいります。健康に裏付けされたダイエット、正しいウォーキングと筋力強化、食べることで食べる機能の維持・回復をはじめ、サロン活動やボランティア活動等、社会参加をつうじた認知症予防や介護予防もすすめてまいります。

皆様方のご助力を賜りながら、組合員、役職員が一丸となって、組合事業と運動の更なる前進に向けて邁進してまいります。今年度も何卒宜しく願いいたします。

「報告書」では、2016年度の多岐にわたる私たちの事業と運動の中から「連携によるまちづくり」を切り口として報告しています。ご一読下さり、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

倉敷医療生活協同組合 理事長

清瀬 氏夫





黄エリアでの治療訓練

水島協同病院

「大規模災害訓練」を実施

「災害対策の準備をしないのは、失敗を準備しているということだ」。東日本大震災から6年、南海トラフ大地震発生が懸念されているなか、水島協同病院では2012年から災害対策に取り組んでいます。

2015年10月第1回大規模災害訓練開催までには、院外研修への参加をはじめ、全職員を対象とした災害学習会を毎年実施しました。なかでも宮城県災害拠点病院・坂総合病院の職員を招いて開催した院内学習会では、震災発生以前の災害対策の取り組み、震災当時の様子、その後の活動について学ぶことで、当院が災害対策に



駆けつけた倉敷中央病院DMAT隊



災害対策本部



模擬患者さんでトリアージ訓練

どのように取り組んでいくべきか方向性が明確になりました。

2016年10月に開催した第2回大規模災害訓練は、前回訓練の課題であった①災害対策本部の情報共有・管理・伝達方法②患者役・家族役の役作りや傷病者を再現するムラージュ(特殊メイク)学習③トリアージ(大規模災害時の診断方法)学習など勉強会を重ねて訓練を実施しました。新たな取り組みは倉敷中央病院DMAT隊の参加協力、近隣消防署からの訓練指導です。災害対策は、近隣医療機関においても取り組まねばならない課題のため、訓練見学希望もあり多くの方にお越しいただきました。結果、訓練の質向上につながりましたが、職員への災害教育については今後も継続が必要です。また、院内設備の災害対策に取り組み、災害時に対応していかなければなりません。

今回、多くの参加協力を得たことで安全なトリアージエリア設営の工夫、災害時の情報共有の必要性、そして地域での医療連携の重要性を共に学ぶことが出来ました。災害はいつどこでおこるか分かりません。引き続き、消防署や行政、近隣医療機関とも連携を取り、災害に強い地域づくりを目指していきます。



赤エリアでの治療訓練



緑エリアにおける2次トリアージ



リアルなケガの特殊メイク

「防災つながりマップ」ができました



みんなで、避難所や危険個所などの情報を書き込みながら意見を出しあう



高圧都市ガスパイプライン
(地下1.2m福山～水島)
地震のときはガス漏れ注意
緊急連絡先・JFEスチール内
瀬戸内ガスライン株444-8200
案内表示板設置個所

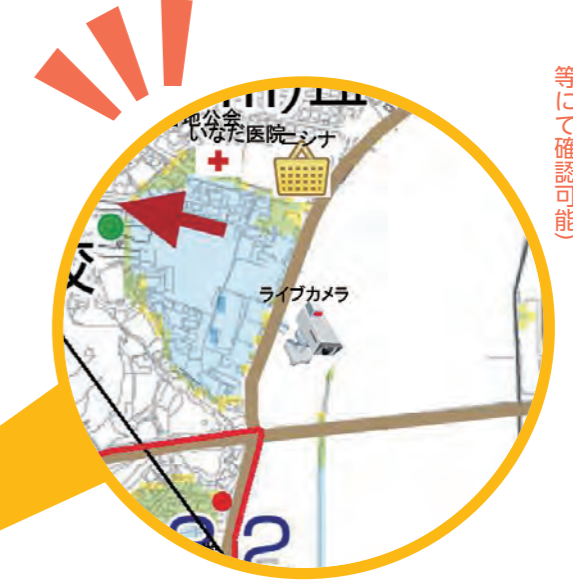
水玉ブリッジラインの下には高圧都市ガスパイプラインが走行しており、地震時にはガス漏れの危険があることが明らかに。



- 凡例**
- 津波避難場所
 - 避難方向
 - 海拔標高(m)
 - 津波避難場所以外の避難所
 - 消防・警察署・病院
 - 主要幹線道路
- 津波浸水深**
- 3.0m以上
 - 2.0m～3.0m未満
 - 1.0m～2.0m未満
 - 0.3m～1.0m未満
 - 0.3m未満

指定避難所の主な装備品
毛布10枚
乾パン24食
飲料水500ml×24本

倉敷市の津波ハザードマップに、2016年5月現在の医療機関、介護施設等、集会所・公会堂、寺社・神社、コンビニエンスストア、ショッピングセンター、沿岸ライブカメラ、都市ガスパイプラインなどの情報を書き加えています。
監修：玉島西中学校区の防災を考える会 連絡先・事務局 玉島協同病院内地域連携室 電話523-1234



沿岸ライブカメラ設置個所を表示
(映像は岡山県危機管理課ホームページにて確認可能)

2016年5月には、地域共同の防災訓練の実施をめざし、高潮の発生を想定した「防災つながりマップ」づくりをおこないました。参加者は3つのグループに分かれて、柏島から黒崎にかけて倉敷市が作成した津波ハザードマップへそれぞれが持ち寄った避難所や危険個所などの情報を書き込み、できあがったマップを発表していました。「避難所」には市の備蓄品があるが、「避難場所」にはないこと、避難所の多くは学校などの公共施設であるが、食料や水などが十分にあるわけではないこと、源平合戦跡から西へ向かう水玉ブリッジラインの下には、JFEスチールの都市ガスパイプラインが走行していて、地震の時はガス漏れの危険があることなどが明らかになりました。参加者からは、「避難所の備蓄量が意外と少なく驚いた」、「高潮の場合、柏島は孤立する可能性があることに気付いた」「地域の方はさまざまな情報を持っていて、これを知ることが大切だと思った」など、多くの感想が出されました。

引き続き、地域・職場の防災意識向上やさらなる連携に向けて取り組みを継続したいと考えています。

「玉島西中学校区の防災を考える会」主な参加団体(者)
倉敷市社会福祉協議会玉島事務所、倉敷市防災危機管理室、玉島保健推進室、玉島中部高齢者支援センター、玉島南高齢者支援センター、玉島柏島小学校、玉島西中学校、玉島南小学校、ボランティアコーディネーター、各町内会長、各民生委員、医療生協組合員、病院職員など



コープリハビリテーション病院・老健あかね

移転新築の合い言葉は 「建ものまるごとリハビリ」

コープリハビリテーション病院・老健あかねは2017年2月に移転新築オープンしました。新しい病院・老健の役割についてご紹介します。



青い輪がコープリハビリテーション病院、赤い輪が老健あかね。それを囲む●と●が連携する地域の仲間です。

回復期リハビリテーション病棟 (3階)

急性期病院(水島協同病院など)に難しい病気(脳卒中、大きな骨折など)や外科手術等で運動能力が低下した患者さんに対し、家庭・社会復帰を支援することを目的とする専門的なリハビリをおこなう病棟です。

医療療養病棟 (4・5階)

病状が安定し、急性期病院を退院しても長期にわたり療養が必要な患者さん(パーキンソン病などの難病や呼吸管理が必要な方、治療が必要なうつ症状の方など)にリハビリを含む治療をおこなう病棟です。

老健あかね入所・ショートステイ (6・7階)

急性期病院退院後、医療療養病棟に入院が必要な病気に該当しない要介護状態の方、住まいで低下した自立機能の回復をご希望の方が利用できます。入所中は短期通所リハビリ(3か月程度)をおこなって住まいに戻る支援をします。認知症に対しても同様なリハビリをおこなう専用フロアやショートステイにも対応します。

外 来

一般内科・神経内科・リハビリテーション科などがあります。外来リハビリ、通所サービス等と連携し、リハビリ効果を確かめ体調悪化を予防します。なお、通院が難しい患者さんの訪問診療は水島南診療所へ紹介します。

在宅で受けるリハビリメニュー

●外来リハビリ

厚労省が疾患別に決めた期間内であれば入院中と同じリハビリを医療保険で受けられます。

●リハビリ特化型デイサービス

リハビリ期間を超えても介護保険で生活機能の低下予防ができます。

●訪問リハビリ

直接自宅に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が訪問し、退院直後の生活不安を取り除く練習をします。

●通所リハビリ(デイケア)

生活不安がさらに強い人(食事、入浴、医学的処置など)に時間をかけて対応します。送迎の際に暮らしの様子にも注意を向けます。

歯科診療室

移転新築の目玉のひとつです。従来の歯科治療の枠を超え、患者さんの「食べるリハビリ」をおこないます。咬み合わせ治療にとどまらず、リハビリ栄養にも関わります。

相談室・連携室

医療や介護の制度は複雑です。さまざまな情報に惑わされ不安になることも多いと思います。ここはそんな方が立ち寄る「灯台」です。なお、無料低額診療事業、障害者総合支援法での短期入所事業も対応します。

地域に暮らす人たちの声

コープリハビリテーション病院・老健あかねの「リハビリをおこなって家に帰すだけでなく、社会に帰すという使命感」に感銘を受けました。また歯科とのリハビリも一緒にできると知り、このような病院ができるのかと嬉しく思います。これからの高齢社会にコープリハビリテーション病院・老健あかねが地域の宝物になることを期待しています。

水島おかみさん会 会長 尾崎 浩子



組合の助け合い サロン活動

倉敷医療生協では、まちづくりの活動として、それぞれの町にあった地域でのつながりづくり、居場所づくりにとりにくんでいます。

福田いきいきサロン 町内会と協力して 二福支部

「100歳体操をしたいけど遠くて行けない」という声を聞き、歩いて参加できる近くの公民館で開催することになりました。町内会の回覧と一緒に体操のお知らせをしていただき、町内の住民にも呼びかけました。昨年の1月半ばからスタートし、毎週木曜日に開催しています。現在参加者は約20人で、「始めたころより、笑顔が増えたね」「体操してから体が元気になったよ」「毎週集まるのが楽しみ」などの声が寄せられています。また月に一度は血圧測定、握力測定、尿塩分チェックなどの健康チェックを実施しています。そして体操の後は必ずお茶を飲んで一息し、歌を歌ったり、脳トレクイズをしたり楽しく過ごします。随時、新しい仲間も増えて、にぎやかに活動しています。



地域の憩いの場 「おしゃべりカフェ」 船穂支部

船穂支部が「おしゃべりカフェ」を立ち上げてから1年以上たちました。地元スーパーの協力で店舗横の部屋を無償で貸していただき、地域住民の交流の場「おしゃべりカフェ」として月2回開催しています。近所の方や、買いもの帰りの方など毎回10数人が立ち寄るようになりました。健康チェックと飲み物や茶菓子の提供が喜ばれています。参加者同士のおしゃべりや、折り紙、お手玉などをして楽しんでいます。

こども食堂 浅口支部

組合ではじめての『こども食堂』が7月26日にスタートしました。浅口支部主催の「さがた夕焼けこども食堂」です。第1回目は子ども19人、親御さんやスタッフなど大人も大勢参加しました。地元の民生委員、小学校の校長、市役所職員さんも見学にいられました。

この日の献立は子どもたちが好きな具たくさんカレー&サラダ+デザート。食材は寄付や菜園野菜の提供などで賄い、主旨に共感して調理のお手伝いをしてくださった方々もいます。料理運びなどを積極的にお手伝いする子どもも何人も現れました。



具たくさんカレーの準備



ハーモニカ演奏で楽しく



大高支部のマップづくり

「つながりマップづくり」を広げました

「つながりマップづくり」とは地域の地図に人や公共施設などを周囲の人々と共同して記すことで、地域のつながりや資源を再確認していく取り組みです。28支部が着手しました。大高支部では1/2500の縮尺地図を用意し、お店、薬局、病院等を地図に書きこみました。組合員4人が現地を周り、「食料品店が少ない」「公衆電話、AEDが少ない」「公園の入口が小さく分かりにくい」など問題点の気づきがありました。



上映中
まちなか映画サロン
第4金曜日一時

まちなかで映画サロン しらかべ支部

しらかべ支部は倉敷駅前商店街の一角で毎月「まちなか映画サロン」を開催しています。映画鑑賞とあわせて、健康チェックや和気あいあいとおしゃべりをしています。映画の内容については参加者からアンケートをとり、古い作品から最近のものまで幅広く鑑賞しています。倉敷市からサロン活動助成があり、参加者の負担なく楽しんでいます。支部では他に「うたごえサロン」も開催しており、組合員や近所の方の集いの場となっています。



一人の困ったを 何とかしたい 給食サービス30年

今からちょうど30年前、健寿協同病院（現コープリハビリテーション病院）を開設した年、奥さんを亡くした後、100円の缶詰を何日もかけて食べていた一人暮らしの男性の困った（栄養状態不良）が相談室に紹介されました。食の確保のため、当時のホームヘルパー（措置制度）利用の援助をおこないましたが、ヘルパー利用は「お上の世話にはならん」と拒否が続きました。この方が自炊できるよう、「男の料理教室」を企画しました。しかし、残念ながら参加者が無く、「せっかく料理したんだから、困っている人に配ろう」と、この方も含め配食しました。これが当組合の「給食サービスボランティア」の始まりです。

自分たちで調理した料理を食べながら、「調理実習は、自分たちも勉強になるし、調理した料理を配ったらとても喜んでくれた。これなら継続できないかな。」と本格的に給食サービスが定期化されました。週に1度の給食は多いときには80食にも及びました。おせち料理の配食もおこなうようになりました。

給食サービスの配達の中で、いつもと違う

様子に病院と連携し、大事に至らなかった出来事や、残念ながら亡くなっているところを発見する出来事も経験し、安否確認の役割も担っています。

30年前は、定期的に給食サービスをおこなっていたのは当組合だけでした。その後、念願だった倉敷市の事業として給食サービスが制度化され、週7日配食されています。当組合の配食数も20食程度となっていますが、現在も続いています。この活動は、一人の困ったをみんなで支える活動としてスタートしましたが、ボランティアで参加したみなさんも、食を通じてボランティア仲間、人とのつながりの大切さを学ぶ場にもなっており、自分らしさを発揮する場所、生きがいさえなっています。今では、一人で自宅で食べるより、みんなで一緒に食べるサロンへと発展しています。一人の困ったをみんなで支えることは、生協運動の原点です。



組合員がつくったNPO「かけはし」 地域での生活をお手伝いして17年

特定非営利活動（NPO）法人かけはし（以下、かけはし）は、介護保険外の身体的ケアや日常生活の家事全般の支援、外出の際の同行、介助などの有償ボランティアをおこなっています。

2000年に、当組合が開催していたヘルパー養成講座の卒業生たちで、「介護保険制度が始まったけど、制度利用の対象にならない生活支援を何とかできないか」と有償ヘルパーの会「かけはし」を結成し活動をはじめました。

その後、会員さんたちが当組合のサポートのもと、2006年に自らNPO法人を立ち上げました。お手伝いの内容は、室内や庭の掃除・洗濯・買い物・調理などの家事全般、食事介助・見守り・話し相手、季節の衣類の整理・片づけ・草取り、入退院時の準備・入院中の洗濯や買い物、ゴミ出し・診察・買い物・墓参りなどの外出介助……と多岐にわたります。

今では、病院の地域連携室や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所からも紹介・相談が来ます。2008年のリーマンショック以降、倉敷市がおこなう「緊急一時宿泊事業」や「相談事業」を「ほっとスペース25」と協力して受託し、8年間活動を続けています。組合員の支え合い事業としてスタートした「NPO法人かけはし」と「かけはしの活動」も生協運動の原点です。





行政などとの連携

倉敷医療生協は、自治体や他法人、地域のまちづくりグループと力を合わせて、健康づくり、まちづくりにとりにくんでいます。

くらしき見守りネットワーク協定締結式

平成28年5月19日



倉敷市と「見守り」協定を締結

5月19日、倉敷医療生協をはじめ、市内26の企業・団体が倉敷市と「地域見守りネットワーク事業」をスタートさせました。これは、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、高齢者や子どもの安全確保に向けた見守り活動等を円滑に実施する」ことを目的に、日常の事業活動や組合員活動の中で、「高齢者や子どもに何らかの異常を発見した場合」倉敷市に情報提供するものです。

倉敷医療生協からも倉敷市への情報提供が始まっています。倉敷市内で高齢者や子どもの何らかの異常に気付いた方は倉敷市への情報提供をお願いします。



情報提供先

高齢者に関すること

倉敷市健康長寿課
TEL 426-3315

子どもに関すること

倉敷市子ども相談センター
TEL 426-3337

予防接種の助成を要望 総社市と懇談



総社吉備路支部と総社市が市保健センターで懇談会をおこないました。住み慣れた地域で元気に暮らし続けるには？支部の運営委員と市の健康医療課・長寿介護課の職員によって論議されました。医療生協からは「現在ある人間ドックの費用給付を引き続きおこなって下さい」「インフルエンザの予防接種費用の助成を子どもにもおこなって下さい」など要望しました。懇談会はその他4市3町(新見市、浅口市、井原市、笠岡市、里庄町、矢掛町、早島町)でもおこなっています。



あさひサロンで足指力チェック



はつらつサロンでタオル体操

他団体と連携してとりくむサロン活動

水島保健推進室との懇談をきっかけに、地域のサロン活動に協力しています。各サロンの年間計画に講座が組み込まれています。内容は健康チェックや体操など様々です。また愛育委員会や高齢者支援センターとの連携でミニ健康展にも参加しています。



社会福祉法人クムレ 小ざくら地域子育て支援センター

小ざくら地域子育て支援センターが月に一回開催している「wakuwak講座」に講師として参加しました。今回は太極拳の指導です。支援センターを利用しているママと子ども、地域の高齢者が参加し、3世代交流の場となっています。高齢者から若いお母さんには子育てのアドバイスを、高齢者は子どもたちから元気をもらっています。



笑和会

週1回活動し、元気いきいき体操(百歳体操)をおこなっています。様々な団体からの協力を得ながら、健康チェック、健康相談、介護予防教室などもおこなっています。平均年齢はなんと78歳です。笑和会のすごいところは現在会員のなかで、この3年間デイサービスを利用している人はいません。この会が介護予防の拠点になっています。



ウォーキングは楽しい 児島ブロック

児島ブロックではウォーキングを1年に11回(8月はお休み)おこなっています。参加者は毎回20人～30人です。男女比はほぼ同じです。行き先は近くの山行から県外では大山あたりや広島県東部、香川県などです。みんなで歩けばとにかく楽しく、2017年6月には第100回となる予定です。



すこしおレシピ学習会 地元の方も参加

笠岡支部では、医療福祉生協連の健康づくりテーマとなっている「すこしお」(少しの塩分ですこやかな生活)活動に取り組んでいます。支部の朝市開催に合わせて管理栄養士を講師に「すこしおレシピ実習」を開催しました。地元住民も含めて25人が参加しました。これからも身近な集まりで「すこしお生活」を広めていきます。



健康寿命 のばす体操

早島支部生命の貯蓄班では毎週15人くらいが参加して、健康寿命を延ばす体操をしています。「丹田呼吸法」をおこなって血流を良くし、免疫力や自然治癒力を高める体づくりをすすめています。月1回は健康チェックをおこなっています。血圧が高く、脈に異常がある人、糖やタンパクの数値が高い人には、医療機関の受診を勧めています。



新見で保健学校を開催

新見ブロックでは9月15日に阿新虹の訪問看護ステーション・須藤美帆所長を講師に9人の参加で「保健学校」を開催しました。「8つの生活習慣と2つの健康指標」をはじめ、「良い眠りのための12のヒント」、「こころの健康を保つための4つのよい習慣」を学びました。受講者全員から「分かりやすくとてもよかった」と感想を寄せています。

さまざまな

組合員活動



戦争遺跡に平和の尊さを学ぶ 大久野島毒ガス工場跡地を訪ねて

「戦争遺跡に学ぶ見学ツアー」を水島ブロックまちづくり委員会と日中友好協会の共催で地図から抹消された島、大久野島に行きました。旧日本陸軍が秘密裡に1929年から15年間にわたり毒ガスを製造し、多くの外国人を毒ガスで殺傷した加害の歴史を持つ島です。戦争の悲惨さ、平和の尊さを学びました。



戦争法廃止の願い大きく 開業医から953筆届く

「戦争法の廃止をめざす玉島の会」は元気に活動中です。スーパー前での土曜日宣伝やケーブルテレビで報道されたこともあり、街の雰囲気は変わってきました。ある開業医の先生は、一人一人の患者さんをお願いし、191枚・953筆の署名を届けていただきました。さらに署名を広げて戦争法をなくす力にしていきたいと頑張っています。



地域ボランティアとして 児童と米作り

川辺まちづくり推進協議会の中に組合員も多数参加する「ふれあい農園部」があり、川辺小学校の5年生の児童と米作りに挑戦しています。籾を蒔くことから始め、田植え、稲刈り、そして穂掛けと昔ながらの農作業を経験しています。今年で17年になりますが、米作りを通じて、児童と地域の人たちとのふれあいを深めることができます。



平和の願い鐘に託して

高梁9条の会は、憲法9条の「9」にちなみ、9月9日午前9時9分から、「憲法9条を守り生かそう」の決意をこめ、市内15寺院でいっせいに「平和の鐘つき」をおこなっています。今回で7回目。各寺院には市民ら56人が参加し、みんなで9つの鐘をつきあいました。各寺院の住職からは「平和の鐘つきは有意義なことです。これからもがんばってほしい」と激励されました。

世界が認めた「協同組合」の価値

協同組合の思想と 実践が無形文化遺産に 登録されました



谷 謙一 専務理事

2016年12月ユネスコ(国連教育科学文化機関)が「協同組合」を人類の「無形文化遺産」のリストに加えることを発表しました。

登録の理由は、「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりをおこなうことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」として、「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実践」が評価されました。

今回の申請は、ドイツにおける協同組合の仲間、とりわけ、ヘルマン・シュルツェ＝デーリチュ協会とフリードリヒ・ヴィルヘルム・ライファイゼン協会の努力によりドイツ政府から推薦されました。ドイツ政府の申請は「協同組合は、共通の利益を明確にし、形にすることを可能にしており、したがってコミュニティを創り上げる実践である。このことが協同組合のもっとも重要な文化的な遺産である。なぜなら、こうした市民の能力は、社会の社会的・環境的な問題に対する革新的で実行可能な解決に大きく貢献できるからだ。……協同組合の仕組みは、共同所有者となり共通の目的の実現のために集まった個人々人の間の相互理解を進める。協同組合の原則は、社会的・文化的・解放的・経済的な発展を促進する。……グローバル化のプロセスのより公正な発展のために協同組合は努力している。」と高く評価しています。

ユネスコ「無形文化遺産」について

ユネスコは、すばらしい普遍的価値を持つ遺跡や場所を世界遺産としていますが、2003年10月、人間の経験は有形の場所や遺跡によってのみでなく、実践や伝統によっても同様に明確にされるべきとして、無形文化遺産を制定した。

無形文化遺産は、「世代から世代へと伝承され、社会及び集団が自己の環境、自然との相互作用及び歴史に対応して絶えず再現し、かつ、当該社会及び集団に同一性及び継続性の認識を与えることにより、文化の多様性及び人類の創造性に対する尊重を助成するもの」とされています。

事業所マップ



- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>1 総合病院水島協同病院
倉敷市水島南春日町1-1
TEL 086-444-3211</p> | <p>5 水島南診療所
倉敷市水島東千鳥町2-10-109
TEL 086-444-9305</p> | <p>9 真備歯科診療所
倉敷市真備町川辺2095-1
TEL 086-698-6523</p> | <p>14 さくらんぼ助産院
倉敷市水島南春日町2-28
TEL 086-448-1103</p> |
| <p>2 玉島協同病院
倉敷市玉島柏島5209-1
TEL 086-523-1234</p> <p>玉島虹の訪問看護ステーション
TEL 086-523-0207</p> | <p>6 コープくらしき診療所
倉敷市宮前384-1
TEL 086-434-8000</p> <p>コープくらしき歯科
TEL 086-434-8020</p> | <p>10 児島歯科診療所
倉敷市児島駅前1-53-3
TEL 086-474-5931</p> | <p>15 デイサービスセンターレインボー
倉敷市連島1丁目7-27
TEL 086-448-4877</p> |
| <p>3 コープリハビリテーション病院
倉敷市水島東千鳥町1-60
TEL 086-444-3212</p> | <p>7 水島歯科診療所
倉敷市水島南春日町11-20
TEL 086-444-8211</p> | <p>11 高梁歯科診療所
高梁市中原町1453-1
TEL 0866-21-0840</p> | <p>16 倉敷医療生活協同組合
倉敷市水島南春日町13-1
TEL 086-444-4321</p> <p>水島虹の訪問看護ステーション
TEL 086-440-4688</p> <p>水島高齢者支援センター
TEL 086-446-6511</p> |
| <p>4 老人保健施設 老健あかね
倉敷市水島東千鳥町1-60
TEL 086-446-6541</p> | <p>8 玉島歯科診療所
倉敷市玉島柏島5418-4
TEL 086-522-6115</p> | <p>12 阿新歯科診療所
新見市新見736-2
TEL 0867-72-8700</p> | <p>13 阿新虹の訪問看護ステーション
新見市新見741
TEL 0867-72-7370</p> |